

第6回 大阪・関西万博きょうと推進委員会 議事要旨

1. 日時・場所

日時：令和7年12月19日（金）午後4時30分～午後6時

場所：リーガロイヤルホテル京都 2階「春秋」

2. 出席者

【委員】（19名）

山極委員（座長）、西脇委員、松井委員、堀場委員、村田委員（以上共同代表4名）、安藤委員（代理出席）、池坊委員、石田委員（代理出席）、ウスビ委員、小川委員、沖田委員（代理出席）、榊田委員（代理出席）、田中委員、中小路委員、平尾委員（代理出席）、前川委員（代理出席）、村尾委員、山地委員（代理出席）、吉本委員（代理出席）

【オブザーバー】

信谷オブザーバー、松坂オブザーバー

3. 議事概要

- ・冒頭、座長あいさつ後、万博会場の取組及び府内の取組の振り返り映像を放映。その後、万博の経済波及効果や人流の動向及び関西パビリオン（京都ゾーン・多目的エリア）の実績と成果について事務局から報告し、3組の出展者から取組について発表いただいた。
- ・万博会場での催事「EXPO KYOTO MEETING」の実績と成果について事務局から報告。同イベントに登壇された山極座長からコメントをいただいた。
- ・大阪・関西万博きょうとアクションプランの実績と成果について事務局から報告。その後、委員から事業の実施報告や今後の取組などについてコメントをいただいた。
- ・万博に向けた京都の取組のレガシーについて事務局から紹介。
- ・共同代表、座長から取組の総括をいただくとともに、今後の展望についてコメントをいただいた。

<座長あいさつ>

- ・昨日、経産省からも万博の総括案の説明を受けたところ。今回の万博では、様々な都道府県から2,500万人を越える来場があり、バランスのとれた万博になったと思う。近年の万博の中では最多の来場数であったこともあり、政府としても誇らしいと聞いている。
- ・京都の取組に関しても、出発点として非常にうまくいったと考えている。今日は取組の実績と成果について報告を聞き、将来に繋がる議論ができるよう、よろしくお願いしたい。

<関西パビリオン（京都ゾーン・多目的エリア）の実績と成果について（出展者3者から報告）>

- ・福知山市では、京都ゾーン及び多目的エリアにおいて、福知山踊りや大江山の鬼文化、丹波漆等に関する展示・実演、食文化の発信や販売、食に関するイベントのPRを行った。
- ・万博出展後に地元の機運が盛り上がり、福知山の鬼文化を発信する新たな住民団体や丹波漆の今後の振興策の検討を目的とした連絡会議が立ち上がるなど、万博への出展が、住民団体や関係団体の日々の活動に対するモチベーションの向上につながった。
- ・取組が一過性のものにならないよう、地域に根づく伝統文化の保存や継承、観光資源の活用やPRを継続して行うことで、京都府やDMO、他市町と連携しながら、さらなる観光誘客に繋げていきたい。

- ・福知山市三和町において産業機械の部品製造を行っているコアマシナリー株式会社は、京丹後の金属加工業者と協業し、組子細工と黒谷和紙を組み合わせたランプシェードを制作し、万博会場で展示した。
- ・京都の先端産業と伝統工芸が合わさった本製品は、来場者の皆様から大きな反響をいただき、地域を活性化させていく旗印として現在も役に立っている。
- ・府内外の展示会で賞をいただくなど、この万博の取組を契機に、地域から都心部そして世界へものづくりの素晴らしさを発信できるような機会をいただいております、感謝しています。
- ・今後も新しいものづくり、新しい町工場のあり方を探求しながら、京都府にはこんな面白いものづくりの会社があるということを広めていけたらと思っている。
- ・普段BtoB向けに印刷特殊加工を行っている京都美術化工株式会社では、来場者への製品に関するヒアリングを目的として、自社で開発製造している「薄雲紙」という和紙と合成樹脂素材を張り合わせた素材を用いたクリアファイル等の製品を多目的エリアで出展した。
- ・西陣織の帯のデザインを新たに取り入れるなど、満を持して迎えた万博だったが、予想をはるかに上回る反響をいただいた。
- ・今後も、展示会等において薄雲紙を通じた印刷物の魅力発信を行うことで、日本の文化、京都の文化を海外へアピールする一助になればと願っている。

<EXPO KYOTO MEETING に関して（座長コメント）>

- ・学生自らが発案したパフォーマンスの披露や、5つのセッション全てに高校生が参加して意見を述べるなど、未来へ向けて、京都が若者を中心に躍動している姿をお見せできた。
- ・キエフのバレエ団が踊りでキエフの実情を訴えかけるというシーンもあり、京都は世界の出来事に真正面から向かい合っているという姿勢もよく表れていたと思う。
- ・5,000人を超える入場者が来られたということは、大変注目を集めた会ではなかったかと思う。

<アクションプランの取組に関して>

- ・関西パビリオン京都ゾーンでいけばなの作品展示を行い、若手の華道家やいけばなに組み組んでいる方に展示を促すことにより、若い方が伝統文化に自発的に関わる意識の変化が生まれたことも大きなレガシーの一つと捉えている。
- ・万博の理念を踏まえ、環境に配慮した素材を使った展示やガラス張りの会場を生かした展示を行うことで、従来にはない新しい展示方法を見つめ直すきっかけとなった。
- ・「けいはんな万博 2025」では、万博期間に合わせ74件のイベントを展開し、当初の予想を大きく上回る20万人以上の方に参加いただき、世界各国からの来場者や立地機関、学生、市民が一体となって交流する機会となった。
- ・石黒先生がプロデュースした「いのちの未来」パビリオンのアンドロイドが今後、けいはんな学研都市で展示公開される予定となっている。
- ・未来社会に貢献できる研究開発のシーズを数多く有するけいはんな学研都市の底力を改めて確認できたことが何よりの成果だと考えている。万博は無事ゴールを迎えたが、ポスト万博シティとしての発展に向けてはスタート地点であると考えている。
- ・万博を契機に関西を訪れる産業視察団やビジネス関係者に向けて、京都工業会の会員企業が有する資料館等の概要を日・英で一覧化し、HPで公開するとともに、関係団体や旅行会社への情報発信を行った。
- ・今後も継続的に情報発信を希望する企業も増えており、京都工業会としても、さらなる発

信に取り組み、企業価値向上とビジネス機会の創出につなげていきたい。

- ・長岡京市では、「長岡京のたけのこフェア」において新たなパンフレットを作成したところ、掲載を希望する事業者が増え、新メニューの開発や参加店舗数の増加につながった。
- ・「平和を考える市民フォーラム」では、万博に関連づけて「いのち」のテーマに結びつけながら取組を進め、参加者、折り鶴の献納者数ともに増加した。
- ・また、京都府の事業を通じて、小学3年生以上の全ての小中学生に、1年かけて事前学習に取り組んでいただいた上で万博を訪問していただくという長期の取組を進めた。
- ・「RITE 未来の森」では、大気中に放出された二酸化炭素を直接回収するダイレクトエアキャプチャー (DAC) の実証機を置き、その仕組みについて、映像や展示を通して来場者にお伝えした。結果的には1万8610名の方に来ていただいた。
- ・アンケート結果を見ると、96%の来場者が見学ツアーについて「よかった」「大変よかった」と回答。また、BIE (博覧会国際事務局) の EXPO INNOVATION AWARD において、分野横断的啓発特別賞を受賞した。
- ・「RITE 未来の森」のガイダンスホールは来年今頃に RITE 本部へ移設し、公開する予定。
- ・精華町では、「歌は時空を越えてⅢ 京町セイカコンサート」において音声合成や3Dモデル等先端技術と伝統的なクラシック音楽を融合させ、学研都市に相応しい新たな音楽文化の創造にチャレンジした。
- ・「せいかな祭り」では町内外から約2万7000人もの方々にご来場いただき、地域間の交流促進につなげたほか、けいはんな万博の取組についても紹介した。
- ・万博で得られた成果を今後のまちづくりに生かし、さらに万博のレガシーとして広く次世代につなげていきたい。

<共同代表、座長からの総括と今後の展望>

■西脇 隆俊 委員 (京都府知事)

- ・皆様の御尽力により、京都の強みや魅力を国内外に発信するとともに、多くの方々に京都に訪れていただくことができた。また、万博を通じて新たな価値や繋がりが京都の未来のために生まれたのではないかと考えている。
- ・「けいはんな万博2025」においては、石黒 浩氏が手掛けたパビリオンのアンドロイド7体を譲り受け、展示に向けて準備中。1つのレガシーの象徴になると思っている。
- ・「きょうとまるごとお茶の博覧会」は、誰もが気軽に茶文化を体験できる北野大茶会の開催等を通じて、茶文化を支えるネットワークが府内各地で生まれた。
- ・「京都駅周辺エリアまるごとゲートウェイ」では、EKIspot KYOTOにも多くの方に訪れていただき、府内におけるパビリオンとしての役割も担ったのではないかと思う。
- ・SNSのフォロワー数も増え、現在はアフター万博の取組を発信しているが、このつながりを今後も生かしていきたい。
- ・万博はゴールでなくスタート。まだ我々が気づかないような成果や中長期にわたる成果もあると思う。
- ・レガシーをそのまま引き継ぐのではなく、さらに発展させ、京都の未来につなげていきたいと考えており、引き続き関係の皆様のお力添えを賜りたい。

■松井 孝治 委員 (京都市長)

- ・万博の成果の一つに、京都企業のイノベーションを喚起したことが挙げられる。70を超える京都市内の企業・団体が万博に参画され、これらの企業から新技術にチャレンジする雰囲気社内にも生まれた、モチベーションが上がったという声を聞いている。

- ・フラッグシップ・アクションにおいては府市協調を進め、「京都国際マンガ・アニメフェア（京まふ）」では、京都府のイベント「BitSummit」との相互連携を図り、昨年を上回る来場があった。
- ・「IVS KYOTO」も多くの方が来場し、来年も京都での開催が決まった。
- ・テックツアーを造成し、27件26の国・地域の団体に参加いただいた。これをきっかけにフィンランドのオウル市と親交が深まり、北欧最大のスタートアップイベント「Slush」のサイドイベントに参加する機会を得るなど、海外企業の京都への企業誘致にも大きな弾みをつけることができたのではないかと思う。
- ・京都大学が国際卓越研究大学の認定候補として選定されたが、京都大学と京都府・京都市が連携したのは史上初のことで、これも万博を一つの契機にして取組を進める機運が生まれた例の一つ。
- ・ノーベル賞の受賞も京都の大きな躍進の機運を高めることとなり、府市が連携し、中学校から大学まで切れ目のないクリエイティブな探究型学習をやっていく機運も生じた。
- ・今後25年間の京都の背骨となるような価値観をまとめた京都基本構想も、万博に刺激を受け、京都の様々な科学者、アーティスト、職人等が学び合いをする場を作っていくような内容が盛り込まれた。観光の分野において府市で推進している「まるっと京都」も含めて、万博から大きな刺激をいただき、様々な成果が得られたと思っている。

■堀場 厚 委員（京都商工会議所 会頭、一般社団法人京都知恵産業創造の森 理事長）

- ・経済界としては、2021年に京都経済4団体で「大阪・関西万博」京都支援協議会を設立。150を超える企業団体から約30億円の寄付を賜り、100社を超える企業団体に約13万枚のチケットを購入していただいたほか、セミナーの開催や商店街でのフラッグの掲出など機運醸成の取組も行った。
- ・万博期間中には関西パビリオン京都ゾーンに100を超える企業・団体が出展。京都商工会議所も7月7日から13日の一週間にわたって出展し、本所が支援するスタートアップ企業5社を紹介した。
- ・また、万博会場の視察見学会を順次実施し、延べ700人を超える会員企業の皆様に万博を体験いただいた。
- ・「けいはんな万博2025」には延べ20万人に来場いただいた。万博での取組を通じて京都の魅力発信に大きく貢献することができたことは大変幸せに感じている。
- ・会期は終了したが、京都経済界としては、万博を契機にさらなる成長を目指す京都の中堅・中小企業のサポートに引き続き努めていきたい。
- ・今回の活動に協力を賜った全ての皆様に深く感謝申し上げる。

■村田 純一 委員（公益財団法人京都文化交流コンベンションビューロー 理事長）

- ・コンベンションビューローとしては、京都の観光事業者に対する協力と同時に、様々な文化事業の開催や海外からの質の高いコンベンション等のMICEを迎えることで、京都の発展に尽くしてきた。
- ・万博は、MICEの中でも最大規模のものであり、多くの万博来場者が京都に来られたと思っているが、そういった方々に楽しく良い思い出を持って帰ってもらえるよう、親切にお迎えしようと取り組みを進めてきた。
- ・皆様のおかげで万博が成功し、来られた方が喜んでお帰りになったということも聞き、大変喜んでる。
- ・座長としてお務めいただいた山極先生をはじめ、委員の皆様、関係者の皆様に、心より感

謝申し上げます。

■山極 壽一 座長（総合地球環境学研究所 所長）

- ・イノベーションは出会いと気づきから始まるものと考えている。万博の期間中に違う分野の方々が出会い、将来に向けて様々な可能性が動き出しているのではないかと大いに期待している。
- ・とりわけ、若い方々が参加をしてくれたということがこれからの京都の大きな強みになると思う。
- ・これを力にして京都をこれからどんどん発展させていくことができればと思っている。
- ・万博が大変な成功を収め、それをさらに未来につなぐいい試みがあったのではないかと思っている。

以上